

第13回 かながわ感動介護大賞



古参の母 幸せな卒業

小林 節子様

● 感動介護を行った事業所 社会福祉法人 孝徳会
DayさーびすMISONOかまくらみち

広島から横浜に、認知症が進み一人暮らしが難しくなった母が私達の家に。
89歳の時でした。朝は1番、帰りは最後とデイのバスが大好きな母は『MISONOかまくらみち』に通う事になりました。母の一番の宝物は、みそのバックと連絡帳。デザートも付くのと
いう食事はいつも完食。月火木金土と生活の全てがデイ中心でした。

月日は流れ、杖で歩いていた母はやがて伝い歩き、手引き歩行となり、そして車椅子に。
私を「節子」と呼ぶことも、娘の「ただいま」に「お帰り」も言えなくなりました。同居して8年
が過ぎた頃、もう看取りの時期に入ったと言われました。施設が頭をよぎり「だけど、あと少
しなら自宅でみたい」とケアマネに伝えました。「小林さんが決めたのなら、三宅さんの事、
皆で最後まで見るからね」と優しいお言葉。その言葉通り出来なくなった母に「三宅さ〜ん」
と10年間何も変わらず声をかけ、大切にしてくれ、自宅で一語も話さない母がデイでは
声を出すと聞いて家族一同驚く事も。

『あと少し』は2年を超え、その2年だけで298日、亡くなる3日前まで、実に1,300回以
上、みそのに行けたのでした。その朝は、とうとう起き上がれずにお休みの電話。すると朝と
夕「顔だけ見に来たよ」と皆さんが自宅に。心残りが無くなったのでしょうか。その夜に…。
夜中、みそのの訪問看護さん達と、ドレスを着せ化粧をしてオシャレな母となりました。
リビングに写真と花を飾り、孫やひ孫に囲まれ送りました。享年百歳。「みその」で一番の古
参でしたがお母さん卒業ですね。横浜での幸せに包まれた10年が終わりました。

